

東京天文台野辺山宇宙電波観測所

アルバム

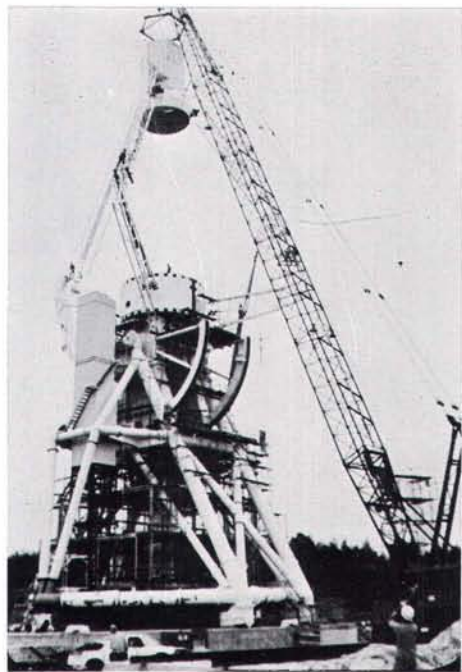


▲ 野辺山宇宙電波観測所全景 (1981年10月)

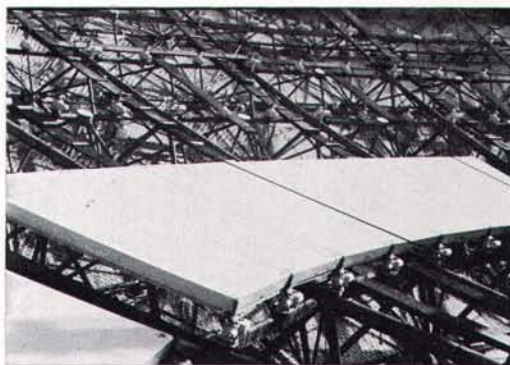


▲ 1982年2月, まだ“冬ごもり”中の10m鏡

〔建設〕



▲ 80年春、45 m 鏡組み立ては着々と進行



▲ 80年春、45 m 鏡の一部に鏡面パネルが張られた、支持部のモータに注意。



▲ 81年春、パネルをはりおえて鏡面調整に入った45 m 鏡



◀ 45 m 鏡の指向を決定するコリメータとの連動試験

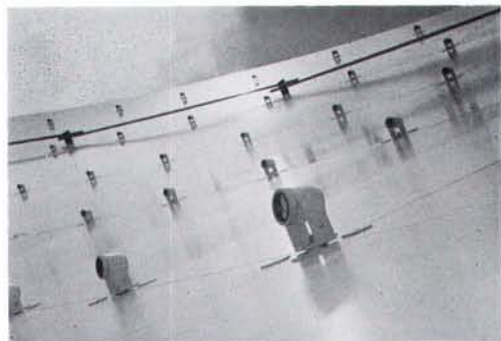


▲ ずらりと並んだ干渉計の10 m 鏡も次々と完成してゆく。

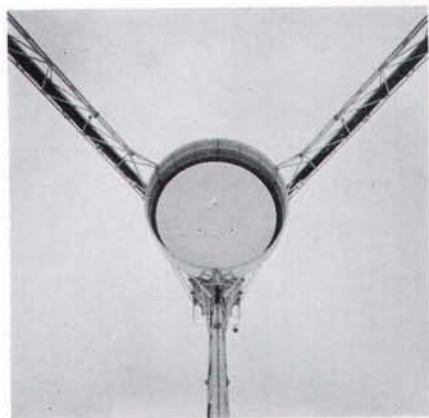


▲ 81年夏、完成間近い本館と共同利用宿舎

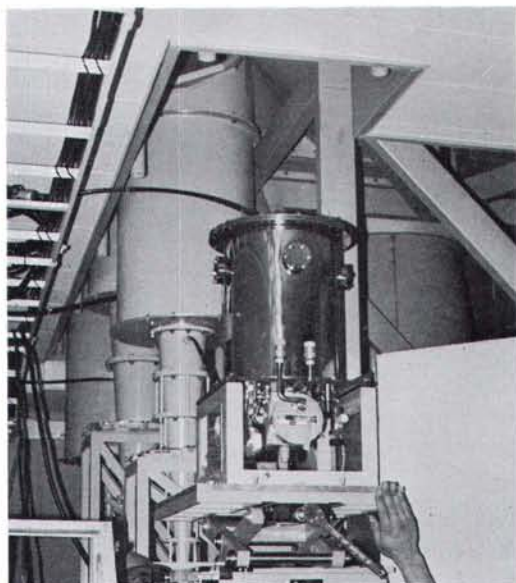
[45 m 望遠鏡]



▲ 700 個の鏡面測定用ターゲット (コーナキューブ)



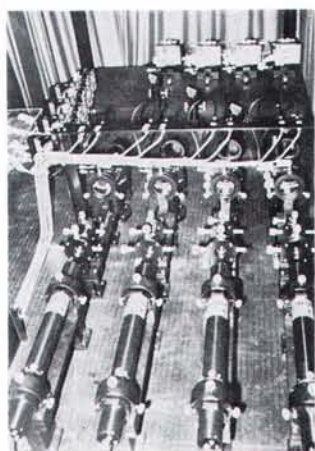
▲ 副鏡 (直径 4 m) を下から見る



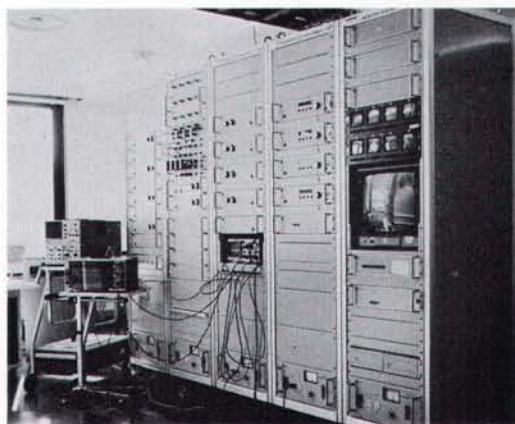
▲ 45 m 鏡下部機器室にずらりと並んだフィード、各波長の受信機が据えられる。



▲ 観測室のコンソールデスク



▲ 16,000 チャンネル、2 GHz 幅の音響光学型電波分光計



▲ 観測室内の受信機 (中間周波部)

〔干 渉 計〕



▲ 東西/南北レールのりかえ用のターン・テーブル



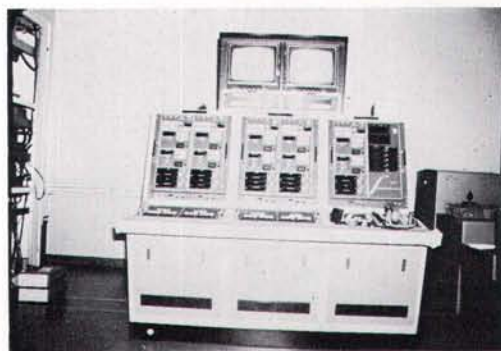
▲ コリメーション観測中の 10m 鏡



▲ 移動台車に乗って東西線にのりいれようとしている 10m 鏡



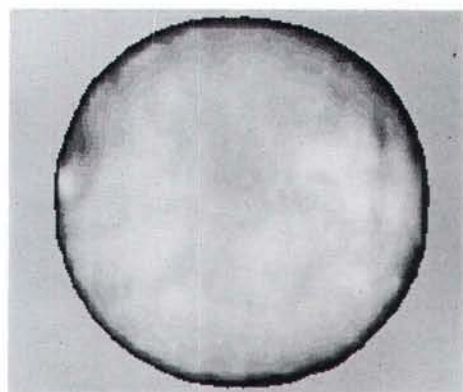
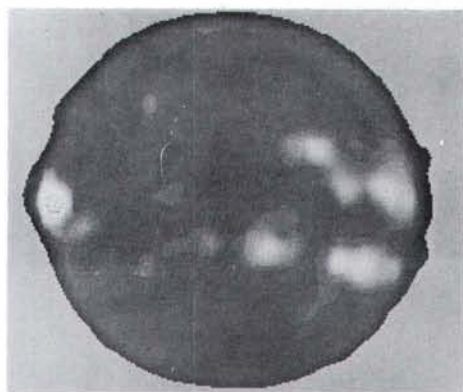
▲ 干渉計の 30 ケ所のステーションは地下のトンネルを通るケーブルで観測棟と結ばれる。



▲ 干渉計観測棟内のコンソールデスク



◀ 本館の大型計算機室



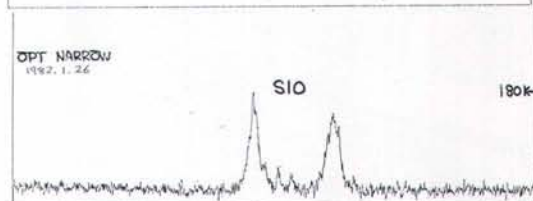
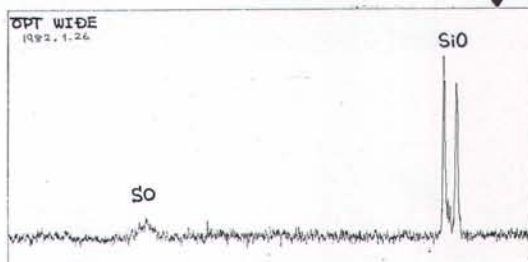
▲ 45 m 鏡による太陽の電波写真 (2月5日)
上は波長 1.35 cm 下は波長 3.4 mm

NRO 速報 No.13

45m 初め! ミリ波で星間分子の χ_{10} ! スペクトル線を受信!

≡ SiO, 86.243 GHz $J=2-1, V=1$ を ORION-A で ≡

フロントエンドは、王立台製、OPT は WIDE, NARROW 併用、
SO のスペクトルも受信。5分間の観測データ。
(ON 20 秒, OFF 20 秒) X 5



▲ 45 m 鏡によるミリ波分子スペクトル受信の成功を伝える「NRO 速報 No. 13」